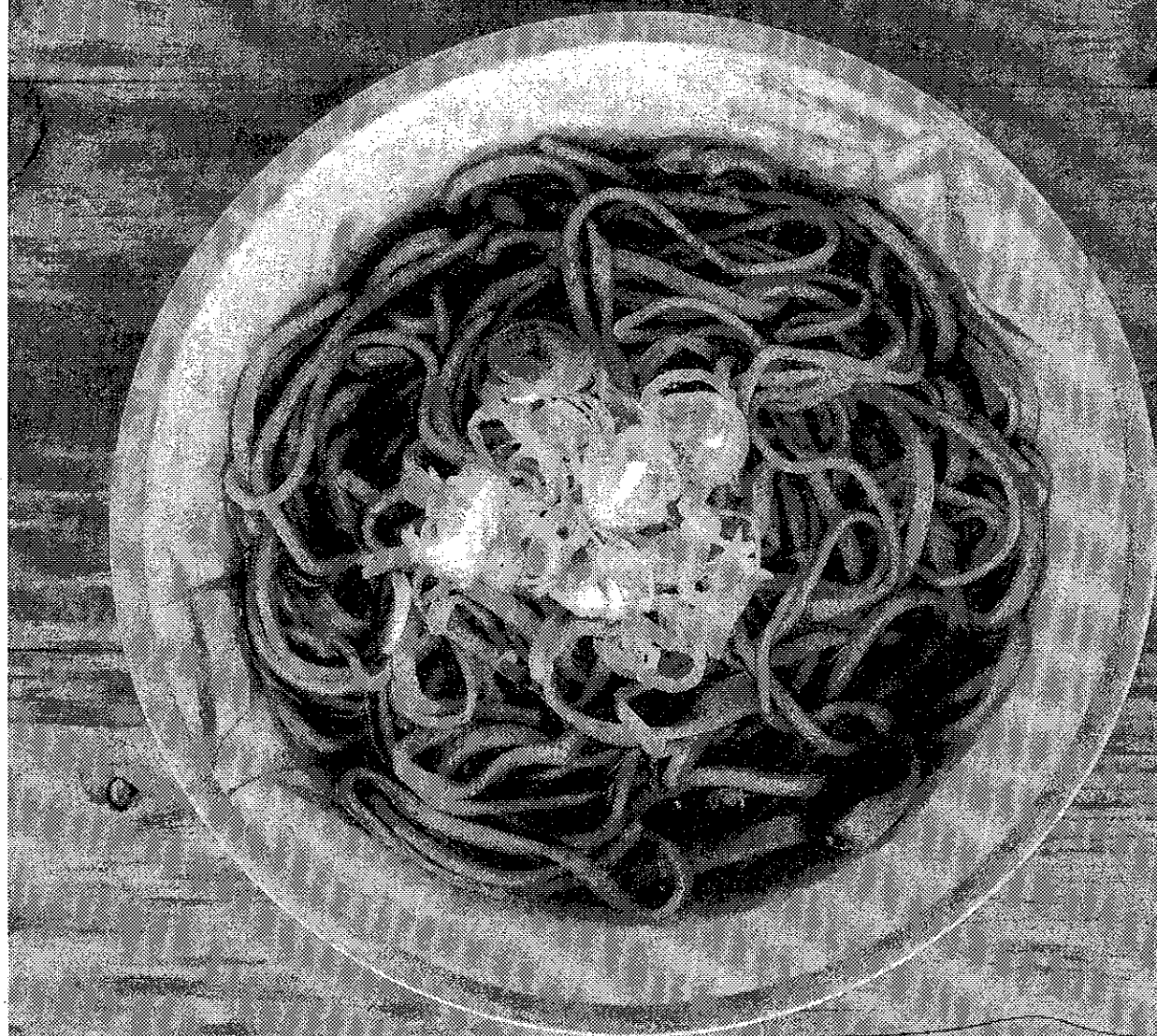


2,500杯分のふれあい。



そばを打つ人、切る人、だしをとる人、みんな汗だく。パチパチパチッ。ドラム缶を改良した手づくりのかまどの下で焚き木が真っ赤な炎をあげながら勢いよくはじける。沸騰した釜にそばを放り込む。ザッザッザッ。湯を切ったそばが器に盛られ、いまかいまかと心待ちにしているお年寄りたちの前に手際よくはこばれていく。新鮮なそば粉を使って丹精込めてつくった正真正銘の手打ちそばは、どんなごちそうよりもおいしいのでしょうか。ふうっふうっ、ツルツルッとそばをすすったお年寄りたちの顔はどの顔もしだいに満足そうな笑顔にかわっていきます。今日は、村のお年寄りを対象に開かれた「隣人ふれあい会」の日。ふるまっているのは、大畑そば愛好会の面々。筑波山を眼前に臨む茨城県新治村大畑のボランティアグループです。設立当初からの会員、井坂健治さんは、したり落ちる汗をぬぐいながら「喜んでくれるお年寄りたちの顔を見たら、もう最高の気分。すべてボランティアなんです、与えるという気持ちじゃなくお年寄りたちに今までご苦労さんという感謝の気持ち、それとこうやってそば作りを通じて仲間と楽しく過ごせることへの感謝の気持ちでつついてるんです。いろんな行事を通じて、年間2,500食を提供してます」。会長の小松崎一幸さんも「当初はそば作りを伝えていくことが会の狙いだったんですが、いまでは出張ボランティアサービスが活動の柱。会員が年々増えていくのは実に頼もしくてうれしいですね」とひと言。そばを通じて広がるふれあいの輪。集まった皆さんの明るい笑い声がとても印象的でした。

●大畑そば愛好会

茨城県新治村の大畑では、古くからそばを栽培。かつて米の凶作の折にも「そば」でしのいできた経緯から、その尊い経験を忘れないためにも、後世までそば作りの技術や楽しさを継いでいこうと昭和48年に発足。現在では、年22回に及ぶ隣人ふれあい会をはじめ独居老人への給食サービス事業等もすべてボランティアで行っており、日本船舶振興会でもこれに賛同し援助協力している。



あなたのふるさとを元気にしたい
財団法人 日本船舶振興会